

- ⑥ 「不況にもろい高教育費社会」(1998年12月、56号)
- ⑦ 「教育改革国民会議報告をどう読むか」(2000年12月、64号)
- ⑧ 「小泉内閣の「構造改革」と選別教育の推進―財政出動の視点から―」(2001年12月、68号)
- ⑨ 「教育基本法第10条と戦争と平和」(2003年9月、75号)
- ⑩ 「(にいがた県民教育研究所20周年への)メッセージ」(2004年12月、80号)
- ⑪ 「義務教育国庫負担制度と「三位一体改革」」(2004年12月、80号)
- ⑫ 「高すぎる経済負担」(2005年3月、81号)
- ⑬ 「教育基本法「改正」と教育の機会均等」(2006年10月、88号)
- ⑭ 「八木三男『窓前の木の間から』に寄せて」(2007年6月、90号)
- ⑮ 「財政難と教育効果をかかげる学校統廃合をどう考えるか」(2008年6月、94号)
- ⑯ 「書評『八木三男教育論集 新潟から日本の教育をみる』」(2009年6月、98号)

⑰ 「(にいがた県民教育研究所に期待するもの)」(2009年12月、100号)

⑱ 「戦後70年の教育運動―教育政策との対抗の軌跡―」(2015年7月、118号)

(みわさだのり・千葉大学名誉教授)

多くの人に会えたこと

吉田 武雄

私は、三十四年編集部にいました。その間じつに多くの人に接することができたのは、得難い体験でした。例えば県内の殆どの私立大学の学長にインタビューしました。

また「学園」問題を研究された黒川克己さんになぜこの問題に着手されたのか、お聞きしました。答えは、「学生たちが、就職に当たり理不尽な扱いを受けているからだ」です。黒川さんは地学専門で研究室は岩石

に満ちていました。

一九九〇年代の末、村上市で鼎談の会を催しました。牧征名さん（教育学）、三輪定宜さん（教育行財政学）、八木三男さん（歴史学）、の三者でした。この記録は情報誌に載せると予告しましたが、載りませんでした。あまりに長くなり掲載は無理となったのです。テーマは、市民運動についてだったと思います。二十数人も多様な人々が集まり、鼎談後は鮭料理を賞味した楽しくまた勉強になった会でした。

二〇〇〇年末、県出身画家（38人）を中心の美術展を新潟市に一週間、開催し好評を得ました。これも得難い経験になりました。

（よしただけお・新発田市）



歌声喫茶

「歌声喫茶」と聞くと、若かりし頃のことが懐かしく思い浮かぶ方が多いのではないかな。

私が所属する新潟県退職教職組合（新退教）新潟五泉支部は、10月7日に「歌声喫茶の集い」を開きました。支部員は、かつての三市中蒲支部の組合員です。当時の組合の集会では、労働歌が中心だったがよく参加者全員で歌を歌っていました。

今回は当時の組合運動を支えてきた人たち、そして今も地域の合唱サークルなどで共に歌い続けている人たちが約20名が集いました。そして、「ともしび」「心騒ぐ青春の歌」「花をおくろう」「カチューシャ」「青い空」等々、4人の手になるピアノ、ギター、アコーディオン伴奏とともに、次々と楽しく心ひとつに、2時間・30曲余りを歌い続けました。

歌い手の構成メンバーは、70代から90代まで！懐かしくも心躍らせてくれた2時間はあっという間に終了しました。

この企画、毎年やりたいとの要望が多数ありました。

（和澄）